

2 方針・取組み

皇居を中心に多様な生命が息づく緑と水辺を骨格として、居心地のよい空間のネットワークを広げ、都心生活を豊かにしていく創造的活用を活発にしていきます。

方針 1

江戸城の遺構を骨格とした緑と水辺の継承と充実

緑と水辺の心地よさが際立ち、安らぎを感じる環境創造軸を形成します。

- 皇居を中心としたまとまった緑、内濠・外濠の桜並木や土手の緑など、今あるかけがえのない豊かな緑と水辺の環境を保全していきます。
- ★皇居や内濠・外濠、神田川、日本橋川などの質の高い緑と水辺から多様な生物が生息する空間や風の通る道を広げ、快適な都市環境形成を進めます。
- ★江戸から継承する遺構を顕在化・再生し、都心千代田の歴史と風格を感じながら、心地よく過ごせる緑や親水性の高い水辺の空間をデザインし、つなげ、広げていきます。
- ★内濠・外濠、日本橋川、神田川などの水辺空間の魅力創造に向けて、水質の浄化を進めていきます。
- ★民有地の樹木や生垣などの身近な緑を保全します。
- 建築・開発においては、風の流れや緑化、水辺環境、崖線の緑などを残す自然地形に配慮した敷地利用、建物配置となるようにしていきます。

方針 2

都心生活を豊かにする空間デザイン

オープンスペースからまちづくりを考え、都心生活の主役となるひとが歩く目線で空間の質と機能を高め、連続性を強めていく建築・開発などを進めます。

- ★緑や水辺に沿って大規模開発等により創出する空地などは、ひとが歩く目線でうるおいを感じ、居心地や使い勝手がよく、周辺の空地や道路・公園などの公共空間等の緑と一体的にデザインされるようにしていきます。
- ★建築・開発を通じて潤いを感じる壁面・屋上などの立体的緑化を推進するとともに、緑の眺望空間を創出していきます。
- ★日常生活を豊かにするスポーツや健康づくり、アート活動などを行える身近な場所を充実させていきます。
- ★建築・開発において、公共空間や周辺の空地などと連続性の高い協調的な空間創出を進めていきます。

★都心における貴重な水辺空間である、日本橋川や神田川沿いの敷地のポテンシャルを活かすため、川沿いのまちづくりガイドラインの策定を検討します。

★建築・開発によって創出される空間については、構想・計画段階から協議を行い、大規模災害発生時にも多面的な機能を発揮し、周辺に滞在する多様なひとの安全確保や救急救援活動などに貢献できるようにデザインしていきます。

★緑化地域の導入及び緑化率を定める地区計画の拡大について検討していきます。

方針 3

官民連携による創造的・多面的な空間活用と維持管理

都心の多様なひとの力、“場”の力を活かして、創造的・多面的に空間を活用し、維持管理を行っていきます。

★既存の身近な公園・緑地、街路樹など、公共の緑の効果的な維持管理と活用を進めます。

★ランニングやウォーキング、アート活動、子どもの遊び、ペットの散歩など、多様な目的・スタイルで訪れるひとが共生できるように、空間のマネジメント手法の多様化を図ります。

★国際交流やアート活動など、都心の魅力あるアクティビティを誘発し、職場と自宅の間で、日常の都心生活を豊かにする居心地のよい場所（サードプレイス）が増えていくよう、空間活用を充実させていきます。

★都心生活を豊かにする“場づくり（プレイスメイキング）”の活動を広げていきます。

★公共空間とその利活用のポテンシャル評価（Potential Public Resource）を行うなど、まちの資源として多様な空間を効果的に活用していくための手法の確立に向けた検討を進めます。

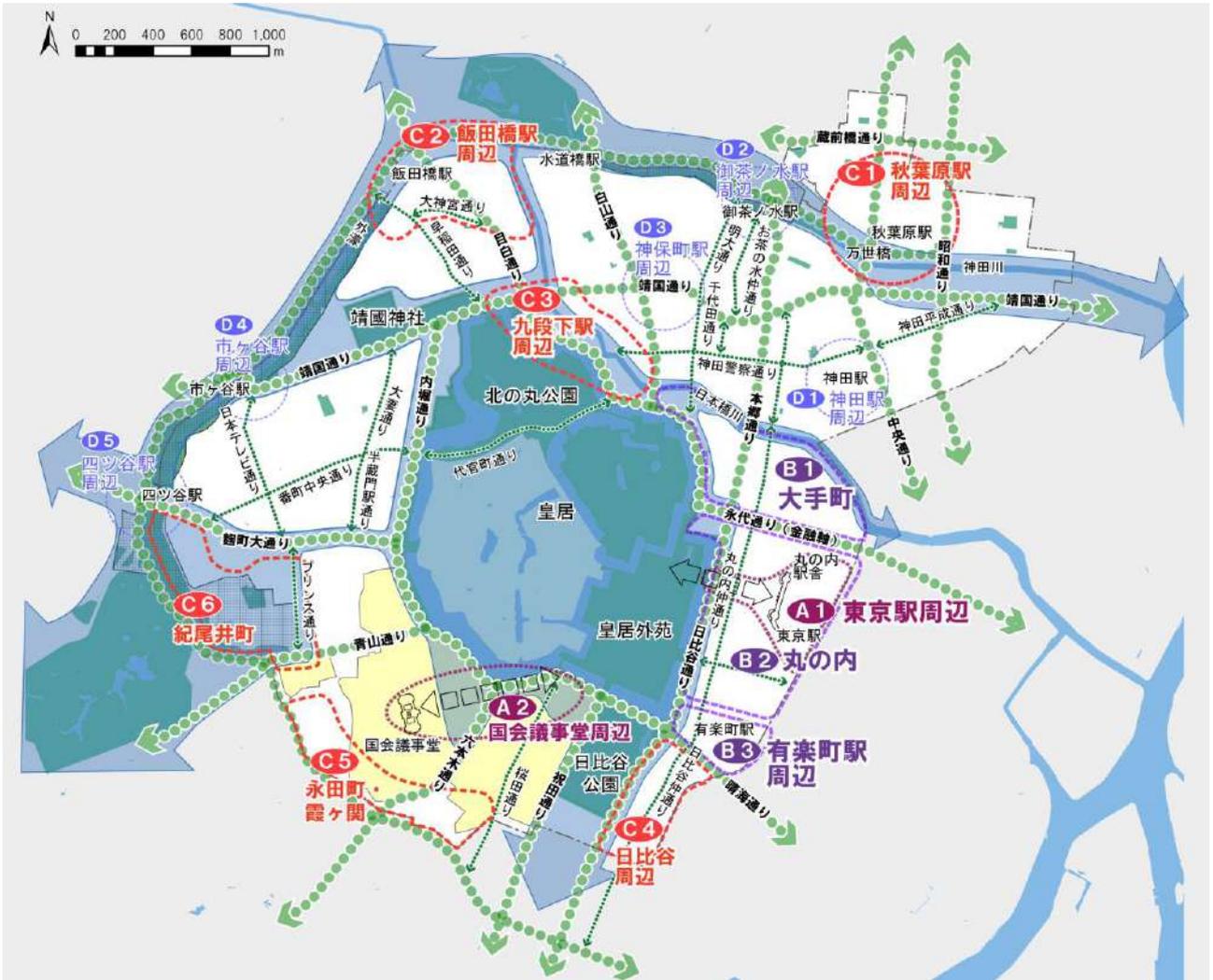
★まちづくり等の機会をとらえ、未開設の都市計画公園の開設や地区施設の公園等の整備について、検討を進めていきます。

★緑や水辺など都心の豊かな空間を充実させていく様々な手法・制度を効果的に活用していきます。

★北の丸公園・皇居外苑・日比谷公園などの区域で構成される「都市計画中央公園」において、複数の管理主体が一体的な管理・活用が図れるよう連携を図ります。

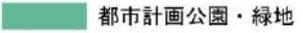
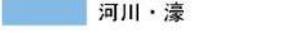
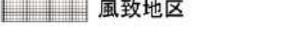
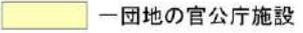
▶方針図

心地よさが際立ち、安らぎを感じる都心環境の形成



-  環境創造軸
-  都市機能連携軸
-  エリア回遊軸

-  都心千代田の象徴的拠点 (A1~2)
-  国際ビジネス・文化交流拠点 (B1~3)
-  高度機能創造・連携拠点 (C1~6)
-  まちの魅力再生・創造拠点 (D1~5)

-  都市計画公園・緑地
-  河川・濠
-  風致地区
-  一団地の官公庁施設

都心の骨格的な緑と水辺	
環境創造軸	江戸城の遺構としての歴史性ととともに、皇居周辺の大規模緑地、内濠、外濠、日本橋川、神田川の緑と水辺の骨格を保全・継承していきます。多様な生物が生息し、多くのひとに親しまれる空間・ネットワークを形成することで、豊かで快適な都心環境を創造・継承していきます。
都市機能連携軸	都心の放射・環状の骨格的な道路沿道において、街路樹や植栽とその適切な維持管理などによって、潤いある環境のネットワークや沿道の緑の連続性を強めていきます。
エリア回遊軸	まちと駅、個性ある界隈をつなぐ通り沿いの建物の機能更新などにあわせて、グランドレベルで緑のつながりや四季の変化を感じられる植栽、一息ついて安らげる空間などが連続する軸の形成を進めていきます。
拠点育成に伴い再生・創造する豊かな空間	
都心千代田の象徴的拠点 (A1～2)	東京駅丸の内駅舎、駅前広場、行幸通りといった首都東京の顔となる象徴的空間を中心に、周辺街区の建築物や敷地内の空地と緑、道路等の公共空間などがトータルなデザインのもとに連続性と一体性を保ち、親しみ活用される拠点としていきます。 国会議事堂及び周辺においては、首都機能を象徴する景観と空間を継承する拠点としていきます。
国際ビジネス・文化交流拠点 (B1～3)	都心ならではの国際的な都市機能や多彩な都市機能が高度に集積する中で、「都心の骨格的な緑と水辺」との連続性を高めながら、働き、訪れ、滞在するひとがより豊かな時間を過ごし、都心の多様な活動に参加し、体験・交流できる空間がつながり、広がっていく拠点としていきます。
高度機能創造・連携拠点 (C1～6)	まちの顔となる主要な都市機能が集積する中で、緑と水辺、公共・民間の空間、地上・地下の連続的・一体的なデザインや空間活用を進め、多様なひとが集まり、活動しやすい環境を充実させていく拠点とします。
まちの魅力再生・創造拠点 (D1～5)	複数の鉄道路線が乗り入れる利便性の高い駅周辺で、地上・地下の移動しやすい空間、安全でゆったりと滞留できる空間、緑や安らぎを感じる空間などによって、駅とまちのつながりを充実させていく拠点とします。
エリアごとの個性的な空間のつながり	
麹町・番町・富士見エリア	内濠・外濠等の骨格的な緑と水辺に囲まれ、居住と商業・業務機能、大使館、教育施設などが調和した落ち着いた落ち着きある市街地環境と都心生活がより豊かになるよう、建物（壁面・屋上等）や敷地内の緑化、視覚的な緑の連続性を高め、潤いを感じる街並みを形成していきます。また、世代を超えた交流や多様性を活かした新たなコミュニティ、文化を育てる空間の充実を進めていきます。
秋葉原・神田・神保町エリア	江戸の下町の風情や味わいある建物、路地の奥行きを感じる空間や小さな緑を大切にし、比較的小規模な敷地でも活用可能な壁面・屋上の緑化を進めていきます。また、道路・公園等の既存の公共空間との一体的な空間、街区レベルの開発などを契機に新たな空間をデザインし、まちの活力、賑わい、文化を継承・創造していく場所としていきます。
都心中枢エリア	「都心千代田の象徴的拠点」、「国際ビジネス・文化交流拠点」において、都心ならではの豊かな空間の創造を進めます。永田町・霞ヶ関の一带（一団地の官公庁施設）においては、国会議事堂周辺の緑地や日比谷公園、内濠などの水辺と一体的な環境を保ち、緑豊かな国家中枢機能の風格を継承・創造していきます。

コラム 官民連携による都心生活を豊かにする空間創出・活用

千代田区では、都心の環境を楽しみ、心地よく過ごせる空間の多様性が増しています。公園・緑地等の公共空間や大規模な開発による空間創出に加えて、都心で休日を楽しむイベント等への活用、土地の暫定的利用による子どもの安全な遊び場創出など、官民の連携で豊かな空間づくりが進展しています。



歴史を感じながらくつろげる公園・緑地
(日比谷公園)



都心の緑の眺望を楽しむ開放的な空間
(有楽町)



休日を楽しむ活動に活用される空地
(神田錦町)



子どもが安心して遊べるくだんした子どもひろば
(九段南) ※暫定利用

コラム ウィズ・アフターコロナで注目される緑・オープンスペースの多機能性

COVID-19の感染拡大により自粛生活が続き、ストレスがたまる中で、開放的な緑や水辺、オープンスペースの価値とその重要性を改めて認識することになりました。

特に公園などにおいては、都心の活動の「三つの密」を回避する役割を果たす中で、屋外でのテレワークや健康づくりの運動やストレス緩和の拠点として活用されるなど、これまでにない使われ方のニーズが出てきています。このほかにも、緑・オープンスペースは防災分野や地域のコミュニティ、グランピング等の優雅な時間消費型の滞在、アーバン・ファーム（農業）、アートなど、多様な活用の可能性があると言われています。一方で、このようなニーズの対応によって緑・オープンスペースが過密にならないように、ニューヨーク市では近隣の街路空間を一時的に歩行者天国にするなど、本来の利用にこだわらない柔軟な運用が行われたケースもありました。

今後は、本来の利用目的や空間の種類・区分に捉われず、多様な可能性を引き出すように空間を活用していくことが重要と考えられています。

【多様な活用・運用の例】

- ・屋外テレワークの場として、Wi-Fiが利用できる公園
- ・公園内のキッチンカーにおいて、キャッシュレス決済などICTを活用した行列の抑制
- ・道路等の公共空間を活用して飲食店などの店先に席を拡張することによる過密の回避
- ・感染症拡大時や大規模災害時のバッファとしての空間活用
- ・非常時の退避場所や救急・救援等の活動のためのスペースと連携した過密化の緩和
- ・廃止された鉄道や高速道路などの高架を活用した緑道など、新たなオープンスペースの創出

3 主体別の取組み

住 民	企 業	行 政
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 植栽活動や清掃活動など、アダプト活動への参加 ◇ 様々なスタイルでまちの多様な空間を活用し、生活の魅力を高める仲間づくりや活動 ◇ 魅力ある空間の活かし方、過ごし方のノウハウの蓄積と情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 所有する空地や屋上・テラスなどの魅力や開放性の向上 ◇ 建築・開発の計画・構想段階から緑の量や居心地のよさ、地域での使い勝手を考慮した空間、生物多様性を支える自然度の高い空間の創出 ◇ 建築・開発時における公共空間整備への貢献 ◇ 創意ある空間活用の企画や活動の事業化 ◇ 身近な緑の創出、維持・管理などの活動への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 緑と水辺の骨格（公園・緑地、河川など）の保全と適切な維持管理 ◇ 東京都や周辺区と連携した外濠・内濠・河川の水質浄化などの水辺の環境改善 ◇ 公共空間の緑化・維持管理 ◇ 協調的な空間デザインのための基準や指針・ガイドライン、ルールの策定 ◇ 民有の空地などと一体となった公共空間の効果的利用を誘導する制度運用

主体間の連携による効果的なまちづくりの例

身近な緑の創出・維持管理に取り組むアダプト活動（麴町子どもの広場〔仲良し公園〕）



道路の効果的活用によって生まれる都心のくつろぎ空間（丸の内仲通り）



写真提供：NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（Ligare）

歴史的遺構を再生し、賑わい施設となった水辺の空間（神田須田町）



夜間でも安心して過ごせるようデザインされた空間（有楽町）



4 他テーマとの連携

テーマの幹となるまちづくりの「方針・取組み」とともに、他の複数のテーマとのまちづくりの効果的な連携と相互補完を意識して、テーマの境目のない取組みを進めていきます。

テーマ2

緑と水辺がつながる良質な空間をつくり、活かすまちづくり

効果的な連携と相互補完

テーマ1：豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり

- ★屋上緑化や緑道の整備など身近な緑の整備と一体となった魅力的な居住環境の充実
- ★日常生活を楽しめる空間や機能の創出・向上

テーマ3：都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり

- ★象徴的景観などを活かした開放的な眺望空間の充実
- ★次世代における水辺のつながりのデザイン
- ★都市の緑を活かし、水辺に顔を向けた建築誘導による景観形成の推進
- ★界隈を楽しむ魅力や空間・機能、サイン等の情報案内などの充実

テーマ5：多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

- 多様なひとが自然とふれあい、交流する機会の充実
- ★子ども、高齢者、外国人来訪者などが安心してくつろげる空間の創出

テーマ6：災害時にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

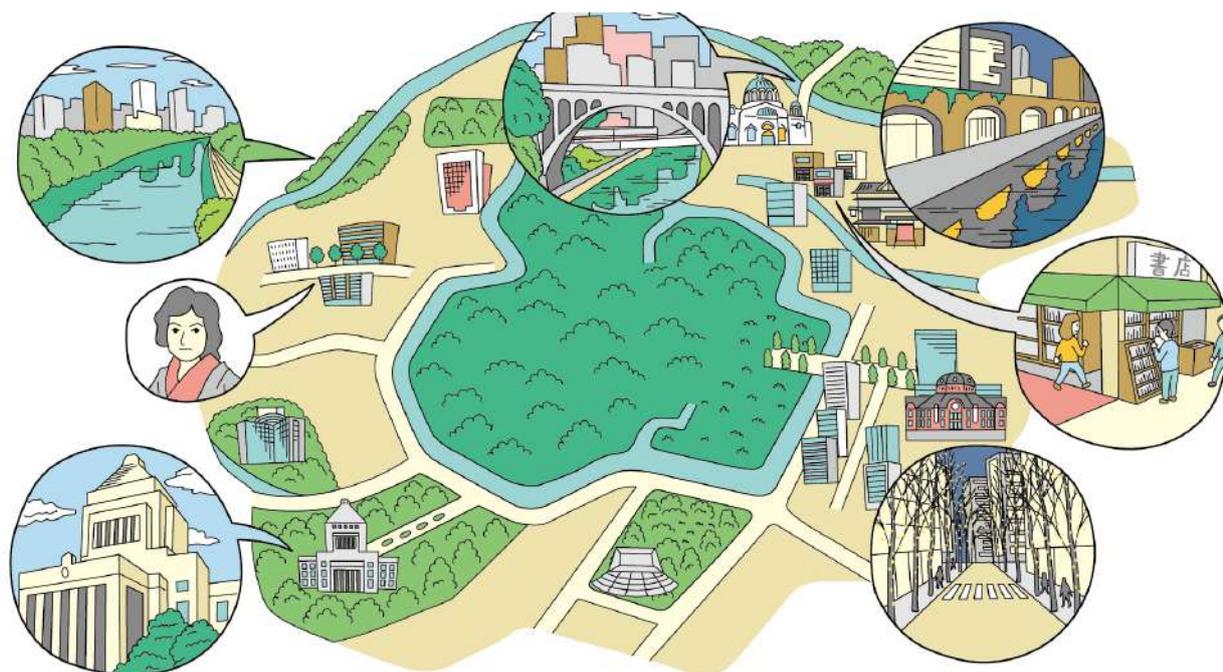
- 避難路としての機能強化に配慮した街路樹や植栽帯の充実
- ★災害時などの利用・貢献を想定した緑と水辺の空間デザインの創出や維持管理
- 延焼防止にも資する公園・広場などのオープンスペースの確保
- ★特定緊急輸送道路・緊急輸送道路沿道での避難・救援活動を行うオープンスペースの確保
- ★病院周辺をはじめ、災害時に活用できる緑地・オープンスペースなどの整備と維持管理
- ★防災船着場など災害時にも機能する水上交通の検討

テーマ7：高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり

- 自然環境の保全・回復
- ★緑と水辺の骨格を活かした快適な都心環境と環境創造軸の形成

都心の風格と景観、 界隈の魅力を継承・創出するまちづくり

未来へのまなざし 都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈



歴史・文化がつながる

- ◇江戸城の遺構（濠・見附跡等）や重厚な歴史的建造物、近代の土木遺構などがつく「象徴的空間」
- ◇まちづくりの系譜の中で育まれてきた地域それぞれの界隈性・文化
（坂道などの地形／祭り／生業／歴史的建造物、稲荷、看板建築などの地域資源、路地等の空間特性など）

未来・世界へとつながる

- ◇緑・水辺と一体となって、世界の人々に親しまれる首都東京の風格・品格
- ◇国内外から訪れたひとがまちの魅力を感じ、楽しめる環境

ひと・まち・コミュニティがつながる

- ◇まちの持続性を高めながら、個性・界隈性をつなぐ建物や空間
（機能更新・リノベーションと大規模開発など）
- ◇**周辺区の行政境を越えた**個性ある界隈の回遊性

あらゆる情報でつながる

- ◇まちづくりの系譜や地域で蓄積・共有された物語
- ◇個性ある界隈を形成する資源や建物・空間などのストックの情報

1 概況

(1) これまでの目標

まちの個性や魅力を活かした、愛される景観に

- 多様なまちの個性や魅力を尊重・活用し、より多くのひとに愛される景観としていく
 - ・歴史的に継承されてきた象徴的で多様な空間
 - ・地域ごとの落ち着いたたたずまい
 - ・特徴ある産業の集積
 - ・豊かな緑と水辺

(2) これまでのまちづくりの主な取組み・成果

- 景観法に先駆け、平成 10 年「千代田区景観まちづくり条例」を制定し、建築物の計画段階から良好な景観形成を誘導してきました。令和 2 年 4 月、景観行政団体となり、同年 7 月景観法に基づく「千代田区景観まちづくり計画」の運用を開始し、景観まちづくりを推進しています。
- まちの文脈や文化を感じさせ、区民に親しまれる建築物等として、建築物等 37 棟、橋梁 19 本を「景観まちづくり重要物件」に指定してきました。
- 都市開発諸制度の活用等、都市再生の進展の中で、江戸城の遺構を骨格とする緑と水辺の眺望の保全、歴史的建造物の復原・復元や風格を継承するデザインの継承、新たな眺望空間の創出など、首都東京の象徴的な景観づくりが進みました。



東京駅丸の内駅舎（復原）の眺望



江戸城の遺構とともに継承する景観
(弁慶濠・赤坂見附跡)



皇居や日比谷公園を見渡す眺望

(3) これからのまちづくりの視点・論点

- 都心の眺望を楽しむ視点場
- まちの魅力やアイデンティティ、建物に刻まれた人々の暮らしの営みや思いの詰まった界隈性
- 「文化」を醸成するまちづくり
- 国内外のひとが、都心の空間・体験の空間を楽しむ界隈の魅力づくりと魅力発信におけるICTの活用

(4) これからのまちづくりの課題

これまでのまちづくりで、江戸城の遺構の継承とともに、首都東京の歴史を物語る象徴的な景観や空間が大規模開発と連動して復元・創出されてきています。その一方で、個性ある界隈の文化や賑わいの連続性、まちの小さな資源や建物、路地空間がつくる風情などが失われつつあります。また、景観法に基づく景観形成の新たな制度運用が始まりましたが、屋外広告物や歴史的建造物に関する制度、区民への普及・啓発など、更なる展開が必要です。

そのため、これからのまちづくりの視点・論点を踏まえ、以下の課題に取り組んでいく必要があります。

○歴史的遺構や文化的遺産の顕在化と継承、創造的活用

江戸城の遺構、骨格となる緑と水辺、歴史的建造物などの資源を活かして、都心の風格・品格や象徴的な景観、その眺望の魅力を高め、様々なひとに愛され、親しまれるよう演出していくことが重要です。

○界隈の味わいやまちの文脈、物語を感じるまちづくりの展開

近年、開発や機能更新が進んだエリアでは、界隈性を醸し出す空間・資源や建物が減少し、街並みの魅力や味わいが薄れつつあります。建物の外観や開発区域だけではなく、エリア全体を見渡して、まちの文脈やひと、生業のつながりを感じ、界隈の個性と魅力を継承していけるようまちづくりを進めていくことが求められます。

○都心ならではの魅力あるクリエイティブな活動の風景の演出

文化芸術、健康・スポーツなど、都心でたくさんの活動がクリエイティブに展開されており、その様子を見ることが都心に訪れるひとにとっての魅力要素としても意識されてきています。そのため、こうした活動を演出し、都心の新しい文化を感じるものとして育てていくことが求められています。

2 方針・取組み

歴史と先進性が共存・融合する都心の風格をより際立たせるとともに、個性ある界隈の味わいや風情、文化を感じられる魅力を伝えていきます。

方針 1

都心の風格の継承・創造

江戸城の遺構を骨格とした都心の象徴的な景観や眺望、風格ある街並みを継承し、楽しめるようにしていきます。

- 江戸から歴史的に継承されてきた首都・都心の構造と象徴的で多様な空間・資源を継承し、活用していきます。
- 江戸以来の首都東京の顔として風格を持ち、親しまれる都心の質の高い景観を保全し、都心千代田ならではの魅力ある街並み、風景を創造していきます。
- ★“世界の中の東京”を意識し、都心の風格・品格をつくる象徴的な空間デザインや、緑・水辺、夜間の光などを活かした効果的な演出、その眺望を楽しむ公開性の高い視点場の創出を進めます。

方針 2

地域それぞれの界隈性を重視した 景観と魅力の継承・再生・創造

起伏のある地形やまちの文脈、生業・文化のつながりを感じるまとまりあるエリアで、個性と味わいある界隈の魅力を継承し、その魅力を高めていきます。

- ★まちづくりの系譜、歴史の積み重ねの中で育まれてきた地域それぞれの文化と界隈の個性を活かし、近接する区外の個性ある界隈との連携も図りながら、街並み・景観の魅力の継承、再生・創造を進めます。
- ★地域のランドマークや史跡、神社・稲荷、看板建築等の味わいある建物、周辺の坂・崖線等の地形、緑・水辺等の特色などを活かし、地域の味わい感じる街並み・景観形成を進めます。
- ★歴史を物語る貴重な建造物や地域のシンボル・ランドマークとして親しまれる建造物、建築としての価値の高い建造物などを景観重要建造物、景観まちづくり重要物件等として指定し、保存していきます。
- ★都心ならではの文化的風景、まちの雰囲気を楽しめるよう、歴史ある祭礼や古書店街など、生業の集積が醸し出す界隈の個性を継承していきます。また、界隈性を活かしながら先進的なアート活動やパブリックアートなどが楽しめる場を充実していきます。
- ★MICE やアフターコンベンション、豊かな都心生活の時間と幅を広げるナイトエコノミーなど、国際的な都市観光や新しいスタイルの交流から、文化を感じられる界隈性を醸成していきます。

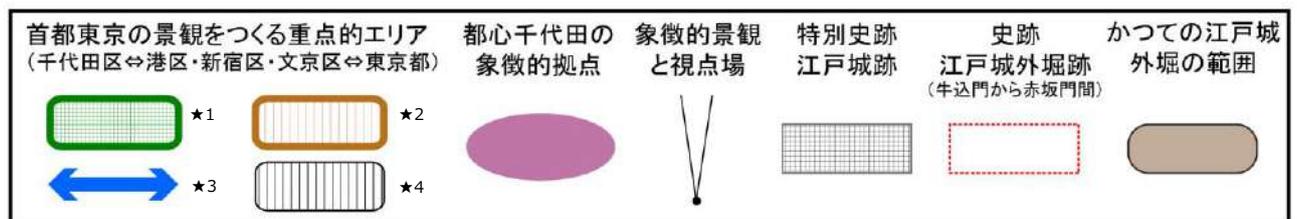
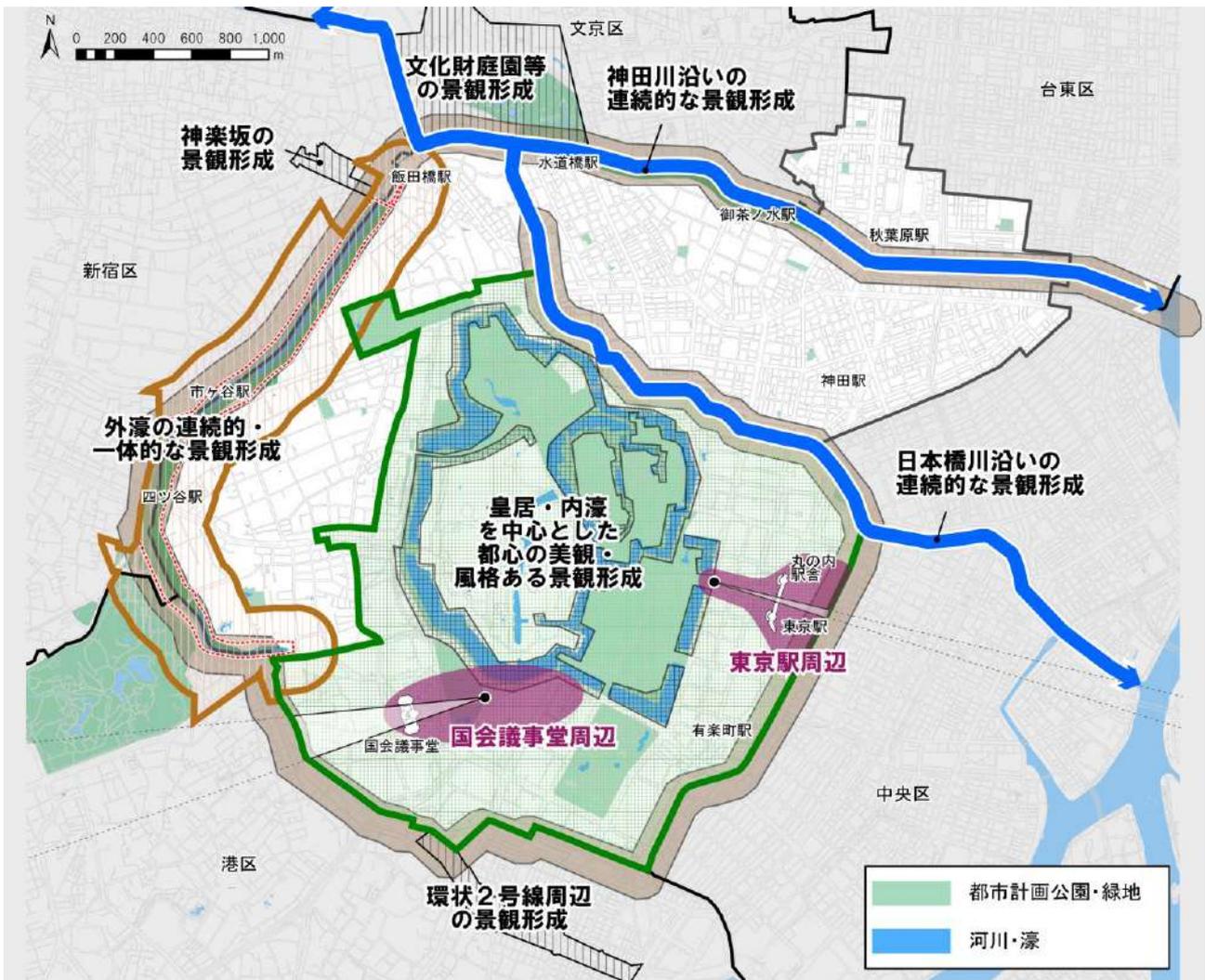
界隈の魅力を高める効果的なまちづくり手法の活用

エリア全体の魅力を高めていけるよう、建築・開発などの規制・誘導や景観まちづくりの制度・手法を効果的に活用していきます。

- ★エリア全体を見渡して、個性ある界隈の魅力を引き出す建築・開発等の協調が進むよう、指針となる構想やガイドラインなどの検討・協議を進めていきます。
- ★個別建物の建替えにあわせて、味わいある建物や空間を活かした界隈性や建物低層部における店舗などの連続性、楽しく歩ける街並みの維持・再生を進めるための手法・制度を活用したまちづくりを確立していきます。
- 周囲の景観や界隈性と調和した美しく、分かりやすいデザインで、案内サイン（案内表示）の整備や、商店・オフィスなどの看板の整備を進めていきます。
- ★景観法・景観まちづくり計画に基づき、地域の魅力・価値の継承・再生・創造を進めていきます。

▶方針図①

周辺区と連携した首都東京の都心の風格と景観形成



※この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 の地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 2 都市基交著第 147 号

- ★ 1 : 千代田区の景観重点地区 : 美観地域重点地区
- ★ 2 : 千代田区の景観重点地区 : 外濠重点地区
+ 外濠周辺景観形成特別地区 (港区)、歴史あるおもむき外濠地区 (新宿区)
- ★ 3 : 千代田区の景観重点地区 : 神田川・日本橋川重点地区
+ 神田川景観基本軸 (東京都・文京区・台東区)、水とみどりの神田川・妙正寺川地区 (新宿区)
- ★ 4 : 隣接区の重点地区等
+ 環状 2 号線周辺景観形成特別地区 (港区)、粋なまち神楽坂地区 (新宿区)、文化財庭園等景観形成特別地区 (文京区)

コラム 千代田区の個性ある界隈やその風景を彩る大切な要素【例示】

江戸城の遺構、江戸から首都・東京の進化の過程で建設された歴史的建造物や土木遺構、史実や小説に描かれた物語、地域の人々が受け継いできた祭りや文化と重なり合って、個性ある界隈やまちかどの風景を彩る一つひとつの要素が歴史の味わいや風情、まちの魅力を感じるアクセントになっています。

▶江戸城の見附跡

〔牛込見附跡〕



▶天下祭りとまちのまとまり

〔神田祭〕



〔山王祭〕



▶風格ある街並みの面影を伝える歴史的建造物等

〔ニコライ堂〕



〔学士会館〕



〔旧李王家東京邸〕



▶土木遺産

〔れんが高架橋 (旧万世橋駅)〕



〔聖橋〕



▶都心生活を豊かにする建物低層部の店舗〔東神田〕

の店舗〔東神田〕



▶まちに息づく風情・味わいある建物・生業

〔佐竹稲荷神社〕



〔老舗 (神田須田町)〕



▶芸術活動の場としてのリノベーション

〔看板建築 (神田須田町)〕



▶文化人が居を構えた番町文人通り

〔東京市麹町区全図〕〔明治28年〕〈部分〉



出典：常設展示図録／千代田区立日比谷図書文化館

3 主体別の取組み

住 民	企 業	行 政
<ul style="list-style-type: none"> ◇ SNS やマップ、タウン誌、書籍など、まちの歴史や文化や魅力ある眺望・景観を紹介する情報の蓄積、発信 ◇ まちを愛する区内外の仲間づくりと交流活動 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域の文化や界隈性、歴史的遺構・資源、ひとと生業とまちのつながりなどを活かした建築・開発と空間のデザイン ◇ 建築・開発における眺望点の整備 ◇ 景観資源を活かして界隈の魅力を高め、楽しむ観光・交流などのビジネスの創造 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 良好な街並み景観の保全・再生に向けた都市計画手法などの活用 ◇ 景観法等に基づく建築・開発の協議・指導など ◇ 制度活用による景観資源の保全・活用 (景観重要建造物／景観まちづくり重要物件／都選定歴史的建造物／景観重要樹木) ◇ 公共施設の景観整備 ◇ 屋外広告物の景観誘導

主体間の連携による効果的なまちづくりの例

江戸城の遺構を顕在化し、眺望ポイントとして整備された空間（紀尾井町）



歴史的建造物の復元と文化・憩い・賑わいの場としてデザインされた空間（丸の内）



景観まちづくりの重要な要素として継承されている建物（神田須田町）



リノベーションにより再生され、クリエイティブな活動の拠点となっている建物（神田錦町）



4 他テーマとの連携

テーマの幹となるまちづくりの「方針・取組み」とともに、他の複数のテーマとのまちづくりの効果的な連携と相互補完を意識して、テーマの境目のない取組みを進めていきます。

テーマ3

都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり

効果的な連携と相互補完

テーマ1：豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり

○個性と魅力ある街並みを大切に、親しまれる住環境づくり

テーマ2：緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

- ★象徴的景観などを活かした開放的な眺望空間の充実
- ★次世代における水辺のつながりのデザイン
- ★都市の緑を活かし、水辺に顔を向けた建築誘導による景観形成の推進
- ★界隈を楽しむ魅力や空間・機能、サイン等の情報案内などの充実

テーマ4：道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

- 無電柱化
- 歩道にはみ出た立て看板、違法駐車・駐輪、ごみのポイ捨てなどの改善
- ★近接する区外の個性ある界隈と相乗効果を高める移動しやすい環境の充実
- ★通りの通称名や江戸の文化を感じさせる古い地名・町名などを活かした界隈の演出

テーマ5：多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

- ★高齢化、多言語化に対応した分かりやすいサイン・情報の充実

テーマ6：災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

- ★界隈の個性を活かした既存建物の長寿命化やリノベーション、耐震化

道路・交通体系と

快適な移動環境がつながるまちづくり

未来へのまなざし 駅・まち・みち一体の次世代交通



歴史・文化がつながる

- ◇歴史・文化が異なる個性ある界隈が、徒歩やゆっくりしたモビリティでつながるエリア回遊軸
- ◇江戸城の城郭に由来し、水の都江戸の交通ネットワークであった日本橋川・神田川の舟運の復興

未来・世界へとつながる

- ◇災害時にも寸断されない、強靱で代替性のある都市骨格軸と道路ネットワーク
- ◇広域的・国際的な交流を支える空港アクセスの拠点
- ◇自動運転など先端技術を実装し、多様な交通モードが切れ目なくつながる移動環境

ひと・まち・コミュニティがつながる

- ◇地上のまちと地下鉄駅などがつながる交通結節拠点
- ◇まちを安全・快適に歩ける空間（道路や公園・緑地等の公共空間、建物周囲の空地など）
- ◇自動車交通量の変化などにあわせて、“ひと”を主役として再構成される道路空間

あらゆる情報でつながる

- ◇自動車、歩行者、都市活動の変化を捉えて、移動・交通を最適化するための多様な情報・データ・技術のプラットフォーム
- ◇ICT やドローン等の先端技術を取り入れ、駐車場などの空間資源を効果的に活用した効率的な物流システム

1 概況

(1) これまでの目標

歩行者と環境にやさしいみち、駅に

- 道路の多様な機能を調和させ、生活者の視点でひとにやさしいみちをつくとともに、鉄道駅をより快適、安全に使えるようにしていく
- 自動車交通による環境への負荷を減らすため、自動車交通への抑制・分散や円滑化、公共交通機関の整備充実・利用促進などに取り組む

(2) これまでのまちづくりの主な取組み・成果

- 東京駅や秋葉原駅、御茶ノ水駅、飯田橋駅や地下鉄各駅において、駅・駅舎の改修や周辺の整備が進展しました。
- 平成 10（1998）年～平成 29（2017）年の間に歩道延長が約 6,000m伸び（12.0%増）、交通安全設備等の整備、無電柱化により、道路のバリアフリー化などが進みました。
- 神田地域、大手町・丸の内・有楽町地域を中心に駐車場整備地区を指定し、平成 14（2002）～平成 29（2017）年の間に、一時預かり駐車場等は約 19,500 台分増加しました。
- 自転車道の整備、周辺 10 区と連携したコミュニティサイクル（シェアサイクル）事業（令和 2（2020）年時点で 137,657 人の利用登録者）などで、環境負荷の低減、健康の促進、交通における自動車から自転車への依存の程度の提言、観光旅客の来訪の促進などを進めています。
- 令和 2（2020）年 4 月現在、定期利用 16 か所、一時利用 15 か所の自転車駐車を整備しています。放置自転車等の撤去台数は減少傾向にあり、平成 24（2012）～令和元（2019）年の間、4,847 台から 3,568 台に減っています。
- 地域福祉交通「風ぐるま」の運行と車両・タイヤ、ルートの見直しを通じて、区民の交通が充実しました。（区内の公共施設や福祉施設、人口集中エリアを網羅し、平成 29（2017）年度は 248,604 人が利用）
- 歩行利用者増加に伴って整備した代官町通り、地域のまちづくりの構想に基づき整備した千鳥ヶ淵緑道など、地域の環境や歴史性を活かした魅力ある道路整備を推進しました。



コミュニティサイクル（シェアサイクル）



地域福祉交通「風ぐるま」

(3) これからのまちづくりの視点・論点

- 駅及び駅周辺の交通結節機能とまちへつながるゆとりある移動空間
- ひと優先の道路空間や周辺の空地や場所がつながり、ウォーカブルで、出かけて楽しいまち
(効果的な道路整備・再編や管理、創造的な空間活用と地域の合意形成)
- ゆったりとしたスピードで、界隈の魅力を感じられる移動
- モビリティなどの次世代の技術革新に伴って進化・多様化する交通モード
- 技術革新に伴う新しい駐車場や物流のあり方と最適なマネジメント
- 区境を越えた周辺**とのアクセスや回遊、区全体と地区内の移動・交通のマネジメント

(4) これからのまちづくりの課題

これまでのまちづくりで安全な歩行空間やバリアフリールートなどの整備を進めてきましたが、整備が必要な箇所がまだ残っています。都市計画道路の一部が未着手となっているほか、国道・都道における無電柱化が進む一方で、区道の進捗率が低い状況が見られます。また、駐車場については、地域によっては附置義務で設けられた駐車場が余っている状況もみられます。

そのため、これからのまちづくりの視点・論点を踏まえ、以下の課題に取り組んでいく必要があります。

○**広域的な幹線道路ネットワークの強靱化と都心のスムーズな移動を支える交通結節機能の強化**

放射・環状の幹線道路のネットワークが確立されつつある中で、大規模な災害でも寸断されることのない都市基盤として強靱性を高めていくことが不可欠です。

また、鉄道、バス、コミュニティサイクルなど、高度化された移動ネットワークを有する千代田区の魅力やポテンシャルがさらに高まるよう、高齢者をはじめ、都心の多様な生活者、来訪者、滞在者などが公共交通を使って安全かつスムーズに移動できる環境を一層充実させていくことが重要です。

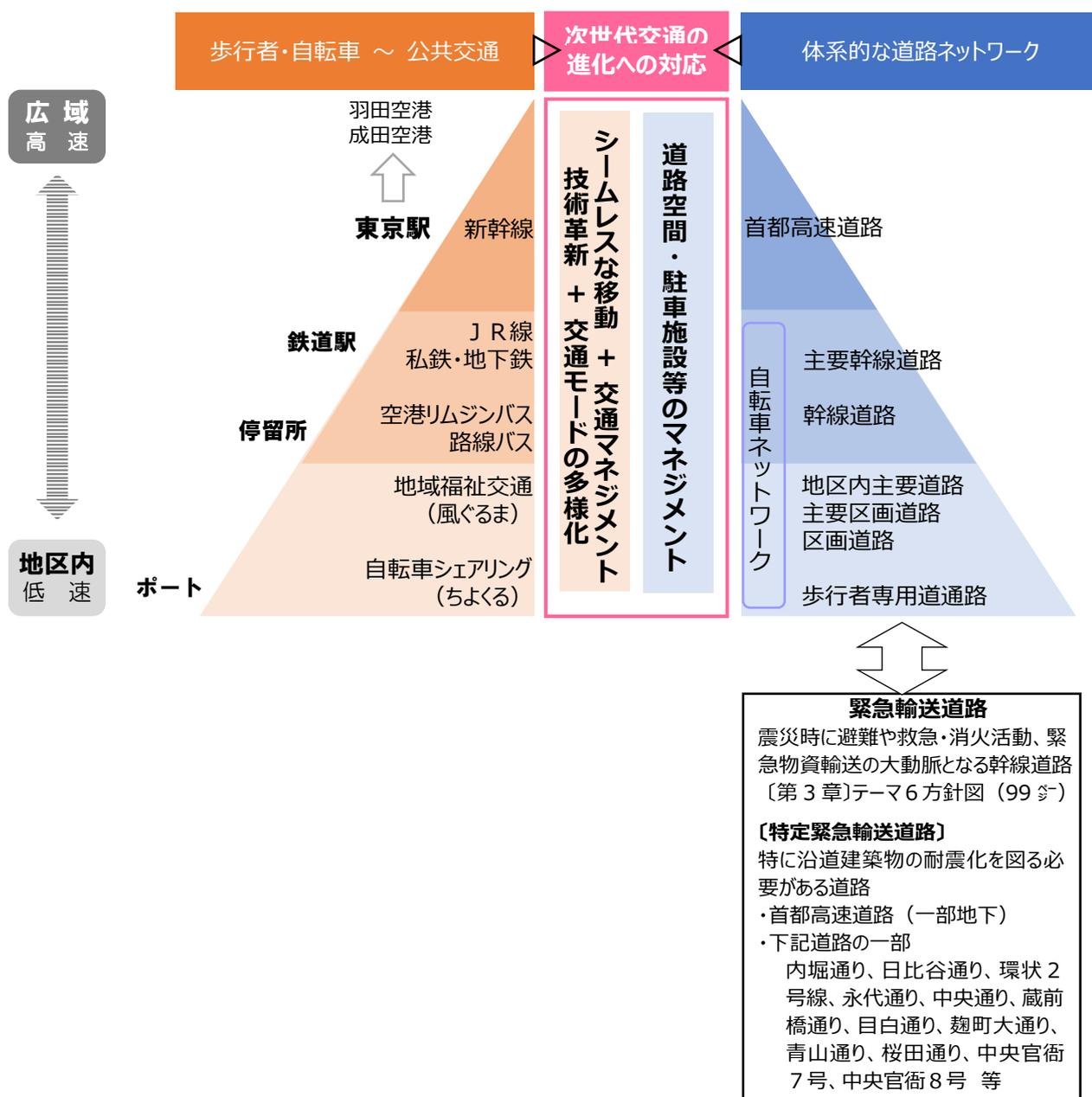
○**様々な技術革新に伴って進化・多様化する交通モードへの対応と交通の最適化・シームレス化**

高度に集積する都心の機能や活動の多様性、人生100年時代の到来、技術革新の進展、自動車利用の減少などに伴う交通・移動のニーズの変化にいち早く対応していくことが求められます。そのため、次世代の技術を取り入れた交通・移動のシステムの実装化（社会実験や都市基盤再編・整備等）に挑戦しながら、交通手段の高度化・多様化や切れ目のない乗り換えで、都心の移動環境をより便利に、快適にしていく必要があります。

○**自動車利用や交通モードの変化を踏まえた道路空間・駐車施設と交通のマネジメント**

街区構成や歩行者・自動車の交通量の変化に応じて、道路空間や駐車施設等を再編するなど、道路・交通基盤とひとの移動を最適化していくマネジメントが必要となっています。

▼移動環境及び道路ネットワークの体系と次世代交通への進化への対応（ポイント）



2 方針・取組み

都心の高度な幹線道路ネットワークと交通利便性を活かして、多様な交通モードを利用して安全で快適に移動できる環境を進化させていきます。

方針 1

都心の骨格を形成し、アクセス性を高める 広域的な道路・交通体系の充実

都市機能連携軸を骨格とする道路体系を確立し、拠点の交通結節機能を充実させていきます。

- ★都心の骨格として都市機能連携軸の役割を果たす都市計画道路について、「整備すべきものは整備し、見直すべきものは見直す」という考えのもと整備を進めます。
- 都市の骨格となる幹線道路、身近な生活に密着した区画道路など道路が持つ多様な機能に応じて、体系的な整備を進めていきます。〔附図：多様な機能を分担する道路体系〕
- ★国内外から都心への来訪者の増加に対応するため、国際ビジネス・文化交流拠点や高度機能創造・連携拠点、まちの魅力再生・創造拠点などにおいて、鉄道、空港バス等のアクセスの目標となる拠点の交通結節機能を充実させていきます。

方針 2

お出かけや外出が楽しくなるみちづくり

“ひと”が主役となり、駅・まち一体で都心生活を豊かにするみちづくりを進めます。

- 開発と連携して、壁面後退や歩道状空地の創出や緑化、歩道の整備・拡幅、無電柱化などを進め、ゆとりと潤いを感じる歩行空間を充実させていきます。
- ★エリア回遊軸に沿って、個性ある界隈や歩道と、公園・広場、街路樹・植栽帯、歴史的資源、空地、休息できる場所などをつなぎ、誰もが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくりを進めます。
- ★自分にあったスピードで、個性ある界隈の魅力を感じながらゆったりと移動できる道路環境の充実を図ります。
- ★周辺のオープンスペースと一体性の高い効果的な道路空間のリメイク（歩道・車道の再編等）などにより、歩行者や自転車優先のみちづくりを推進していきます。
- ★駅前広場空間や道路、通路、地下空間等のネットワーク、地上へ続くバリアフリールート整備など、鉄道駅の改修や駅周辺の建築・開発、まちづくりと連携して、地上・地下をつなぐ安全で快適な移動環境の整備を進めていきます。

方針
3

多様な交通モードを切れ目なく活かせる 移動ネットワークの確立

技術革新の進展にあわせて多様な交通モードが切れ目なくつながり、スムーズに経路と手段を選択し、乗り換えられる移動環境を充実させていきます。

- ★誰もが円滑に乗り換えられる交通結節点の機能や空間の充実・再編を進めていきます。
- ★バリアフリー基本構想の見直しや移動等円滑化促進方針の策定の検討を進めていきます。
- ★自動運転や超小型モビリティ、ICT、AI、脱炭素、蓄電池などの技術革新の進展をいち早く捉え、実証実験から実装化への道筋をつくります。
- ★既存の交通手段と技術革新に伴う新しい交通手段が切れ目なくつながる移動ネットワークの形成にあわせて、都心生活における移動の目的に応じた経路選択や決済までの効率性・利便性が高まるよう、移動ネットワークとその情報を進化・充実させていきます。（自動運転バス・タクシー、自転車・自動車・超小型モビリティ等のシェアリング、舟運・水上交通など）

方針
4

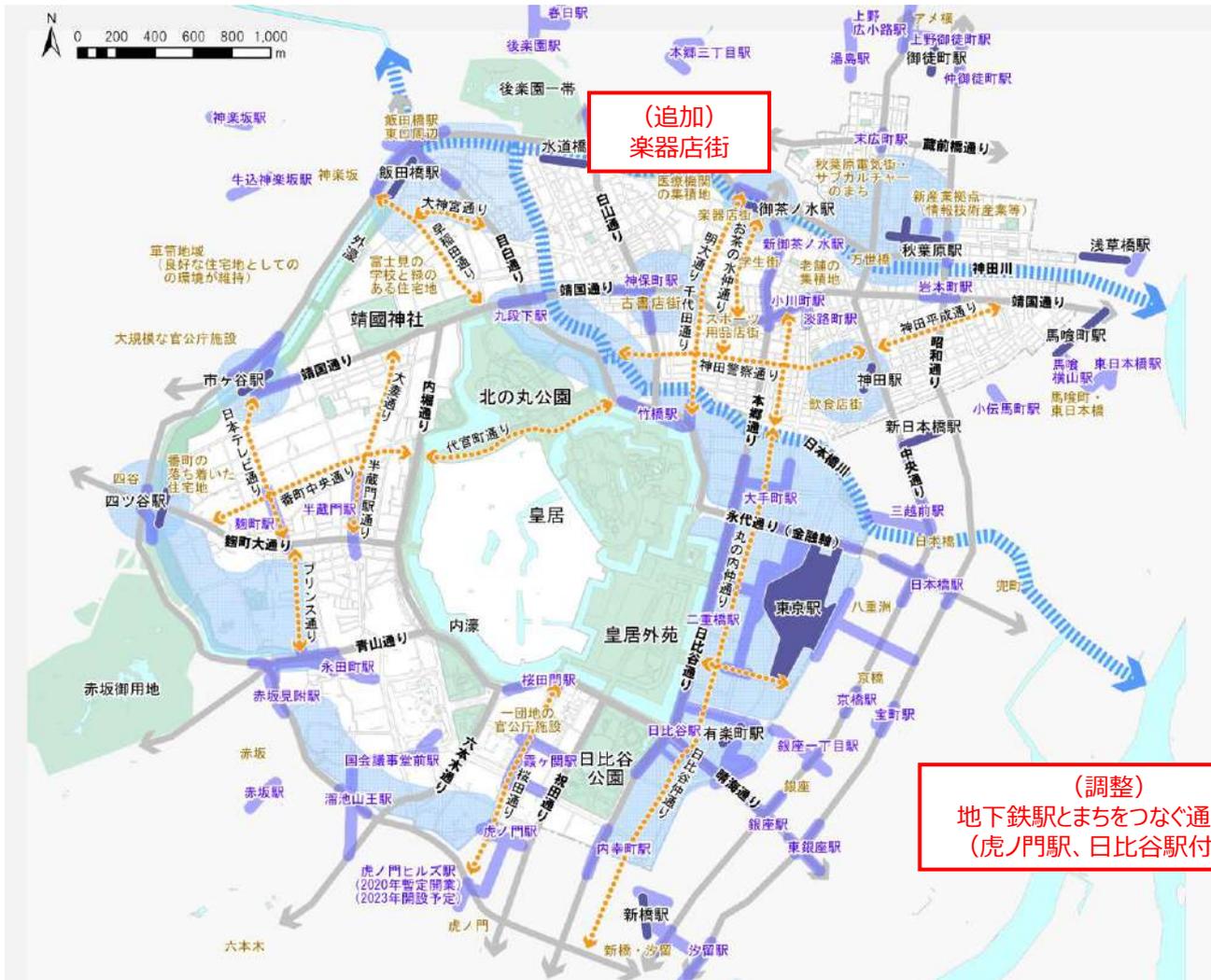
次世代交通の進化のための 道路空間と交通・物流の最適化・マネジメント

次世代交通の進化や交通動向の変化に応じて、道路空間や交通・物流の最適化・マネジメントの仕組みを確立していきます。

- ★オープンカフェやイベントなど、地域の魅力創造に資する活動のため、円滑な交通と安全性の確保を前提に、道路占用許可等の柔軟な運用により、公共空間としての道路を効果的に活用できるようにしていきます。
- ★附置義務駐車場等、地域における駐車場利用の実態や需要に応じて、駐車場整備に関する地域のルールの検討などを行って整備の適正化を図ります。
- ★自転車走行空間や自転車等駐車場の整備など自転車走行環境の向上を図ります。
- ★IoTでつながるモノの移動（荷捌きなど）の円滑化やサービスの進化に対応して、荷捌き車両のための空間・施設を充実させていきます。
- ★次世代の交通モードの導入や自動車利用の変化を踏まえ、街区の交通処理のあり方を検討したうえで、道路空間の最適化の検討を進めていきます。

▶方針図

拠点と都市骨格軸を基本として多様な都心の活動を支える移動空間



 交通結節機能が充実する拠点
(国際ビジネス・文化交流拠点、高度機能創造・連携拠点、まちの魅力再生・創造拠点)

 都市機能連携軸

 鉄道駅 (JR)

 都市計画公園・緑地

 エリア回遊軸

 地下鉄駅とまちをつなぐ通路等

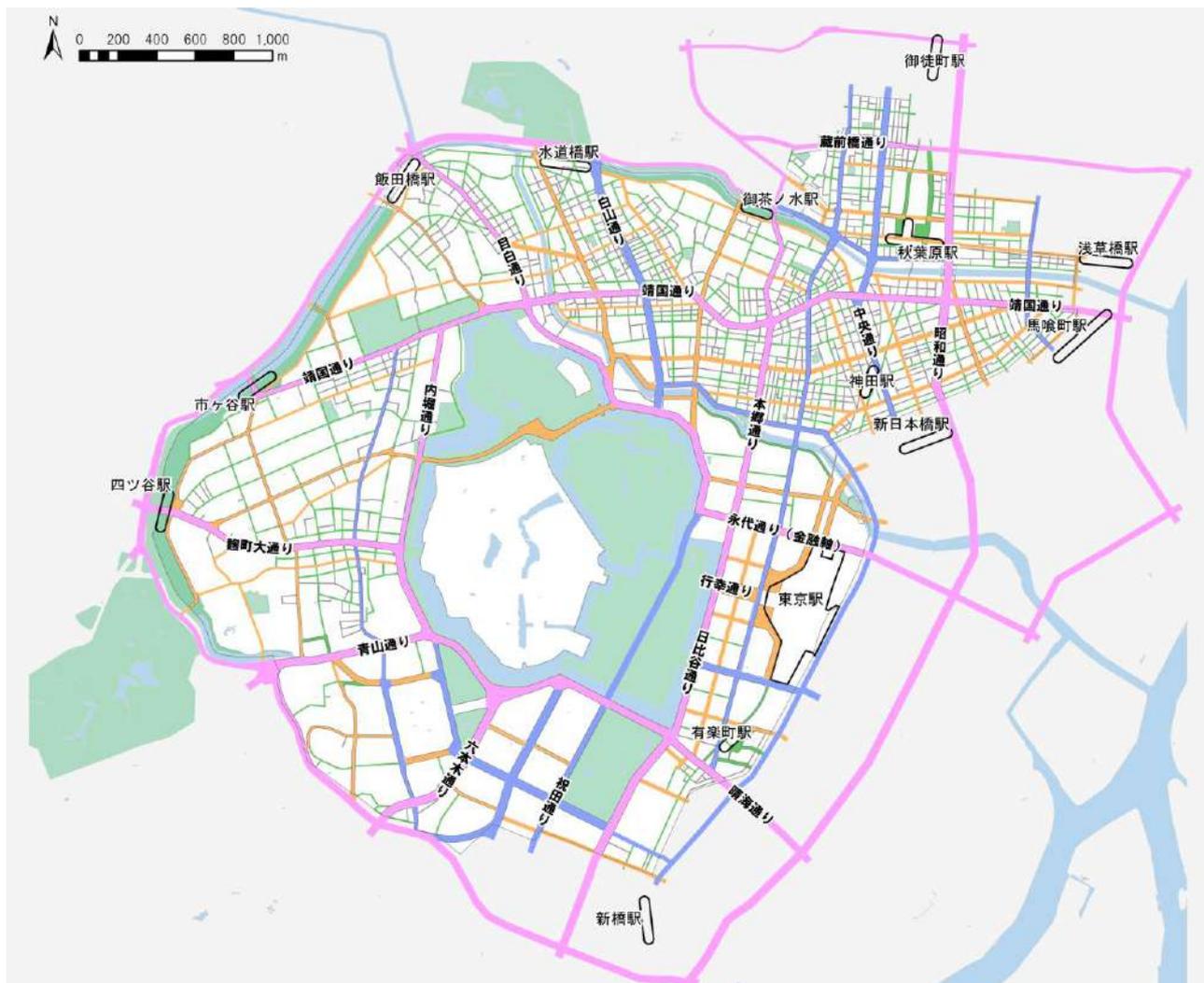
 河川・濠

 神田川～日本橋川の軸

※この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 の地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 2 都市基交著第 147 号

▶ 附 図

多様な機能を分担する道路体系



<p>■ 広域的な交通を処理する道路</p> <p>—— 主要幹線道路</p> <p>—— 幹線道路</p>	<p>■ 生活に密着した地区内の交通を処理する道路</p> <p>—— 地区内主要道路</p> <p>—— 主要区画道路</p> <p>—— 区画道路</p>
--	---

<p>■ 都市計画公園・緑地</p> <p>■ 河川・濠</p> <p>○ 鉄道駅 (JR)</p>
--

■ 広域的な交通を処理する道路

都心の骨格を形成する道路として、広域的な移動、緑や風の道などの環境形成、街並み形成の軸としての役割を果たすとともに、大規模災害時にも機能するよう、適切な整備・更新や維持管理を進めていきます。

種別	機能	事業推進の考え方
主要幹線道路	都市の骨格を形成し、都市間交通や通過交通などの広域的な交通を処理する	現状の都市計画道路を基本として、国・都の各整備担当機関に事業推進を要請します。
幹線道路	主要幹線道路と並んで都市を形成し、広域的な交通と地区内の交通を処理する	

■ 生活に密着した地区内の交通を処理する道路

将来の自動車利用や移動・物流等の需要、自動運転等の技術革新などを見据え、ブロックごとの最適なマネジメントを進める中で、ひと優先で移動しやすい道路への空間再編などのあり方を見直していきます。

種別	機能	配置・整備の考え方
地区内主要道路	地区の骨格を形成し、地区レベルの交通を集約的に処理する	〔配置〕現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては概ね 300m に一路線とすることを基準とし、幅員 13m（車道部 7m・歩道部 3m×2）を目標とします。 〔整備〕地区内の主要な路線として、防災にも配慮した安全な「交通軸」、通勤通学や買い物等における快適な「生活軸」、緑とゆとりのある快適な「環境軸」などの多様な役割が果たせるよう整備します。
主要区画道路	各区画道路の交通を地区内主要道路に集約する役割を担う	〔配置〕現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては概ね 150m に一路線とすることを基準とし、幅員は消防活動を考慮して 6～8m を目標とします。 〔整備〕区画道路のうち主要な路線であり、歩行者の利用も多いため、通過交通の抑制と歩車共存型道路の形成に努め、地域のコミュニティ空間としても機能するよう整備します。
区画道路	最小単位の道路であり、個々の宅地へのアクセスを担う	〔配置〕現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては歩行者の安全性、防災性、緊急車両の通行などを考慮して計画します。 〔整備〕個々の宅地にアクセスする最小単位の道路であり、歩行者の安全性に特に留意して整備します。

コラム 三密回避で進むまち・駅・道路空間・歩行空間の変化

これまで公共交通機関における過密の回避は、主に快適性・利便性の観点に基づくものでしたが、COVID-19の感染拡大を受け、安全・安心の観点からも一層求められるようになりました。感染リスクを踏まえたひとの適切な密度を保つ空間の確保やICTの活用により、過密を避け、安心して利用できる環境を整備することが求められています。

道路空間・歩行空間においても、人とひとの適度な距離を保てるよう、ゆとりある歩行空間の確保や自動車交通量等の動向を踏まえた歩行者中心の空間再編などが必要になってくると考えられます。また、「通行のための空間」としての利用から、近隣の建物内の密を回避するための、これまでの枠に捉われない使い方についても検討が必要だと考えられます。

ICTを活用した新技術などを積極的に取り入れていくことも必要になってきます。既に将来的な実装が見込まれる自動運転や、様々な交通手段を一つのサービスに統合しシームレスにつなぐ「MaaS」の取組みについて積極的に導入を進めていくことが考えられます。このほか、リアルタイムなひとの移動の動きをまちに設置したセンサーで収集し、デジタル空間で膨大なデータをAI技術で分析、シミュレーションを行って、過密化しやすい場所を見える化してアラートを発信したり、過密を避ける、あるいは緩和する移動のマネジメントを行うことなども考えられ始めています。

こうした新たな可能性にチャレンジには、個人情報に関する情報セキュリティなど、クリアしなければならない課題も多く、試行錯誤していくことが求められています。

【密を避けるためのアイデア】

- ・リアルタイム情報等の提供による公共交通機関の利用者の最適化
- ・交通を利用するための交通結節点にとどまらない、憩いやゆとりをもたらす駅まち空間
- ・歩行者を優先し、歩行者空間に密をつくらない人感センサーに基づく信号機 など

3 主体別の取組み

住 民	企 業	行 政
<ul style="list-style-type: none"> ◇自転車や超小型モビリティなどの新しい乗り物の交通ルール・マナーの徹底 ◇道路空間を活用したオープンカフェの利用やイベントへの参加、担い手としての参画 ◇SNS やマップなど、歩きやすいみちや歩いて楽しいみちの情報の蓄積、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◇地下鉄駅と地上のまちをつなぐ空間・通路や道路空間と一体性の高い空地などの充実に貢献する建築・開発の構想・計画 ◇お出かけ・外出が楽しくなる道路空間などの創造的な活用・維持管理 ◇多様な交通モードの実装化（社会実験等）への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ◇計画的な道路の整備と維持管理・更新 ◇地上・地下の移動環境の充実に念頭に置いた開発誘導手法の活用・運用 ◇道路空間の再編や移動・交通の最適化（マネジメントなど）の支援 ◇道路等の公共空間の効果的活用や次世代の技術・システムの実装化（社会実験など）の支援

主体間の連携による効果的なまちづくりの例

駅舎改良や開発事業を契機とした駅周辺の豊かな空間の創出（飯田橋駅西口周辺）



地下と地上のまちをつなぐように開発にあわせて整備された空間・通路（有楽町駅～日比谷駅）



道路と民有の空地を一体的に再編して空地を設けた街区（神田錦町）



先端技術（自動運バスなど）の実証実験の場として活用される道路（丸の内仲通り）



4 他テーマとの連携

テーマの幹となるまちづくりの「方針・取組み」とともに、他の複数のテーマとのまちづくりの効果的な連携と相互補完を意識して、テーマの境目のない取組みを進めていきます。

テーマ4

道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

効果的な連携と相互補完

テーマ3：都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり

- 無電柱化
- 歩道にはみ出た立て看板、違法駐車・駐輪、ごみのポイ捨てなどの改善
- ★近接する区外の個性ある界隈と相乗効果を高める移動しやすい環境の充実
- ★通りの通称名や江戸の文化を感じさせる古い地名・町名などを活かした界隈の演出

テーマ5：多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

- 鉄道駅及び周辺におけるスロープ、地上・地下をつなぐ通路、エレベーター、エスカレータの設置
- 駅の安全対策や鉄道車両のバリアフリー化、ノンステップ・低床バス、リフト付きタクシーなどの導入
- ★歩車道の分離、歩道の段差解消、車いすの利用を前提とする広幅員の連続した歩道の確保
- 視覚障害者用ブロック、交通弱者用信号機の設置拡大

テーマ6：災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

- ★大規模災害時に機能する強靱で代替性のある幹線道路の鉄道などの交通ネットワークの形成
- ★移動・避難・救援・輸送ルートの確立と機能点検・更新
- ★災害時における災害拠点病院等や医療機関が集積するエリアへのアクセスルートの確保
- ★特定緊急輸送道路・緊急輸送道路のほか、災害拠点病院等へのアクセスルートなどの沿道の建築物や道路・橋梁等の更新、耐震化・長寿命化
- 避難経路（道路など）の整備、高速通信網の構築にも資する無電柱化

テーマ7：高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり

- 公共交通機関の整備と利用促進、時差出勤によるラッシュ時の混雑緩和
- 自動車交通量の抑制、自転車の利用促進
- EV や PHV（プラグインハイブリッド自動車）等 ZEV（ゼロエミッション車）の充電設備の普及、駐車場等の充電ネットワーク、FCV（水素燃料自動車）のための水素ステーションなど、環境負荷の少ない次世代自動車等の普及促進と利用環境整備

多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

未来へのまなざし 障壁のない多様な活動と交流



歴史・文化がつながる

- ◇ 住み慣れたまちで、自分の住まい方にあわせて適切な住宅が選択できる環境
- ◇ ライフステージが変化し、年を重ねる中でも、子育て、介護、医療、教育、スポーツなどの施設が利用でき、安心して住み続けられる環境

未来・世界へとつながる

- ◇ 年齢や働き方、国籍・信仰、価値観・指向性など多様な背景の“違い”を持つひととの交流やつながり、新たな価値を創造する力

ひと・まち・コミュニティがつながる

- ◇ “ひと”を主役にデザインされた道路・公園などの公共空間
- ◇ 誰でも参加しやすく、障壁を感じることなくふれあえる場所・機会

あらゆる情報でつながる

- ◇ 多様な背景の“違い”を超えて、ひととの出会いや交流、共創の活動を広げる情報
- ◇ 誰でも等しく情報などを得られる環境